



ドラマは足元に眠っている。

「歴史」という言葉から、何を連想しますか？

教科書に載っていた昔の出来事。

小説やテレビの中のお話。

なんだか遠い世界のことのよう……。

私たちは今日の暮らしが長い歴史の

上に成り立っていることを、

忘れがちではないでしょうか。

かつて熊本のあるちろこちらで、

いろんなドラマが繰り広げられてきました。

今では忘れられ、

訪れる人もまばらな歴史の舞台。

もしかしたら、あなたの身近な場所にも、

思いがけない史実が

眠っているかもしれません。

火の神の怒りを鎮めた下野の狩

●阿蘇町……二辺塚

古より噴火を繰り返し、時として大きな災いをもたらしてきた火の山・阿蘇。人々はこの山を神として畏れ、敬った。そして、怒りを鎮めるために狩りを行い、生贄を捧げたという――。

これが阿蘇大宮司家に代々伝わる日本最古の巻狩・「下野の狩」の始まりだと言われています。外輪山一帯で行なわれていたこの狩の起源は、はっきりとは分かりません。しかし、源頼朝が富士のすそ野で巻狩を行ったために、家臣梶原景時を遣わし習得させたほど、由緒あるものなのです。

生贄を捧げ、神事を行なったとされ



▲二辺塚

る場所が、阿蘇町にある「二辺塚」。この二つの小高い丘は、地元で「にえづか」とも呼ばれており、生贄の「贄」から、その名が付いたのではないかと言われています。

▼JF阿蘇駅横より国道212号線に折れ内牧方面に車で5分

阿蘇神社と並ぶ由緒正しき神社

●玉名市……疋野神社

昔、ある姫君が夢でお告げを受けた。「肥後の小笹山の麓の炭焼を夫にせよ」と。都を下り炭焼を訪ねたところ、そこは黄金の宝庫。二人は大金持ちとなる。ところが、ひよんなことで菊池氏の怒りを買ひ、哀れにも滅ぼされてしまふ。そして、この二人の魂を鎮めるために、神社が建てられた――。

これが、阿蘇三社と共に肥後四社のひとつとして栄えた「官社疋野」疋野神社の起源とされています。郡司日置氏の守護神でもあったが、日置氏没落の後、廃れ、社地もほとんどわからなくなっていました。今の神



疋野神社▶

社は、細川氏によって再興されたものです。しかし、遺構も残っていない今となつては、もはや、昔の偉容を知ることすらできません。

▼産交バス熊本・大牟田線玉名農高前下車、徒歩5分